

四十二回蒼天句会 今月の一句

令和八年四月九日 兼題…菜の花、又は自由

標本箱のやうに人人汐干狩 公子

借景のふくらむ花とティータイム 婦紗子

カメラ手に風と菜の花ローカル線 賢一

菜の花や旅の終わりの船着き場 繁一

霾るや連休明けのキーボード 孝志

菜の花や児の絵に如かぬ拙のホ句 洋一

囀りやしぼし目で追い耳で追い 信江

菜の花や凶のみくじを木に結ぶ 静江

菜の花やお遍路笠の見え隠れ 鎮夫

菜の花や三日続きの雨嬉し 国祥

花菜原波打つ黄金海の如 隆彦

花の夜の少し無口な二人かな 重子

断捨離のどこかが痛い犬ふぐり 朱美

菜の花の海にポツンと総の駅 紹子

蒼天と帝都を背負ひ花菜咲く 晴代

菜の花の在所に貨車の長さかな 久恵